

September 15, 2021

【前日の為替概況】ドル円、低調な米8月CPIと米10年債利回り1.26%台で109.53円まで下落

14日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3営業日ぶりに反落。終値は109.69円と前営業日NY終値(109.99円)と比べて30銭程度のドル安水準だった。米連邦準備理事会(FRB)のテーパリング(量的緩和の縮小)時期を占う意味で重要な8月米消費者物価指数(CPI)が予想より弱い内容となったことが分かると、米長期金利の指標である米10年債利回りが一時1.26%台まで低下。全般ドル売りが先行した。一時は120ドル超上昇したダウ平均が失速し、350ドル超下落したこともリスク・オフの円買いを促し、2時30分前に109.53円と8月24日以来の安値を付けた。

ただ、米国株の下落を受けてリスク・オフのドル買いが強まると、ドル円にも買い戻しが入ったため、引けにかけては下げ渋っている。主要通貨に対するドルの値動きを示すドルインデックスは一時92.68と日通し高値を付けた。

ユーロ円は下落。終値は129.47円と前営業日NY終値(129.91円)と比べて44銭程度のユーロ安水準。21時30分過ぎに一時130.20円と日通し高値を付けたものの、そのあとは一転下落した。米国株安を背景に、リスク・オフの円買いが優勢となり一時129.37円と本日安値を付けた。

ユーロ円以外のクロス円も軟調だった。ポンド円は一時151.33円、豪ドル円は80.17円、NZドル円は77.64円、カナダドル円は86.33円、メキシコペソ円は5.50円まで値を下げた。

南アフリカランド円は下げがきつかった。南アが世界最大の産出量を誇るプラチナの先物価格が前日比3%超下落したことも材料視されて、一時7.65円まで値を下げた。

ユーロドルは小幅ながら3日続落。終値は1.1803ドルと前営業日NY終値(1.1811ドル)と比べて0.0008ドル程度のユーロ安水準だった。予想を下回る米インフレ指標を受けてドル売りが先行すると一時1.1846ドルと本日高値を付けたものの、そのあとはユーロ円の下落につれた売りが出て1.1800ドルと欧州時間に付けた日通し安値に面合わせした。米国株の下落を受けてリスク・オフのドル買いも見られた。

【本日の東京為替見通し】ドル円、NYダウ下落と米10年債利回り1.26%台で上値が重い展開か

本日の東京外国為替市場のドル円は、低調な米8月消費者物価指数を受けて、来週21-22日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で年内のテーパリング(資産購入の段階的縮小)開始が表明される可能性が低下したことで、上値が重い展開が予想される。

本日のNYカットオプションが110.00円、109.65円、109.60円に控えていることで、来週のFOMCを控えて、値動きが抑制される可能性にも要警戒か。

米8月消費者物価指数は前月比+0.3%、前年比+5.3%、コア指数は、前月比+0.1%、前年比+4.0%に留まり、パウエルFRB議長やハト派の米連邦準備理事会(FRB)高官のインフレ高進は一時的との見方を裏付ける内容だった。FOMCでは、年内のテーパリング開始は、9月の雇用統計などを見極めるという慎重なスタンスとなる可能性が高まっている。

中国8月の小売売上高の予想は前年比+7.0%(7月前年比+8.5%)、鉱工業生産の予想は前年比+5.8%(7月前年比+6.4%)となっており、中国政府による規制強化を受けた景況感の悪化を確認することになる。中国8月の製造業PMIは50.1となり、3月のピーク51.9から低下し、サービス業PMIも47.5となり、3月のピーク56.3から低下基調にあることで、ネガティブサプライズを受けたリスク回避の円買いに要警戒となる。

本日のドル円のオーダー状況は、上値には、110.00円に本日のNYカットオプション、110.20円にドル売りオーダー、超えるとストップロス買い、110.30円、110.40円、110.50円にドル売りオーダーが控えている。下値には、109.50円にドル買いオーダー、109.40円にドル買いオーダー、割り込むとストップロス売りが控えている。

ドル円のテクニカルポイントとして、一目均衡表の雲の下限109.77円、雲の上限110.19円、転換線109.99円、基準線109.96円、そして21日移動平均線109.89円、90日移動平均線109.93円が挙げられる。主要なテクニカルポイントが110円付近に収斂していることは、現状のドル円相場の膠着の結果ではあるが、今後の大相場を予感させるものであり、市場のポジションがドル買い持ち気味となっていることで、ハト派的なFOMC声明がリスクシナリオとなる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◎ 7月機械受注（予想：船舶・電力除く民需 前月比 3.1%／前年比 15.7%）
- 13:30 ◇ 7月第三次産業活動指数（予想：前月比 0.3%）

<海外>

- 07:45 ◇ 4-6月期ニュージーランド（NZ）経常収支（予想：17.50億 NZドルの赤字）
- 09:30 ◇ 9月豪ウエストパック消費者信頼感指数
- 11:00 ◎ 8月中国鉱工業生産（予想：前年比 5.8%）
- 11:00 ◎ 8月中国小売売上高（予想：前年比 7.0%）
- 15:00 ◎ 8月英消費者物価指数（CPI、予想：前月比 0.5%／前年比 2.9%）
- 15:00 ◎ CPIコア指数（予想：前年比 2.9%）
- 15:00 ◇ 8月英小売物価指数（RPI、予想：前月比 0.5%／前年比 4.7%）
- 15:45 ◇ 8月仏CPI改定値（予想：前月比 0.6%／前年比 1.9%）
- 18:00 ◎ 7月ユーロ圏鉱工業生産（予想：前月比 0.6%／前年比 6.3%）
- 20:00 ◇ MBA住宅ローン申請指数
- 20:00 ◇ 7月南アフリカ小売売上高（予想：前年同月比 3.3%）
- 21:30 ◎ 8月カナダCPI（予想：前月比 0.1%／前年比 3.9%）
- 21:30 ◎ 9月米ニューヨーク連銀製造業景気指数（予想：18.0）
- 21:30 ◇ 8月米輸入物価指数（予想：前月比 0.3%）
- 21:30 ◎ シュナーベル欧州中央銀行（ECB）専務理事、講演
- 22:15 ◎ 8月米鉱工業生産指数（予想：前月比 0.4%）
◇ 設備稼働率（予想：76.4%）
- 23:30 ◇ EIA週間在庫統計
- 24:00 ◎ レーン ECB 専務理事兼主任エコノミスト、講演

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

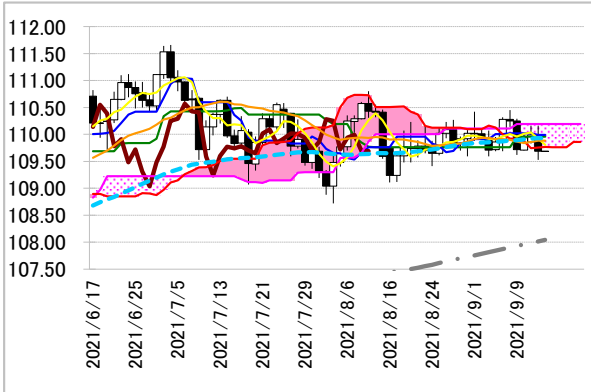
14日 12:08 ロウ豪準備銀行(RBA)総裁
「2024年より前に利上げをする可能性低い」
「失業率が5%のレンジを若干超えることに驚きはなし」
「テーパリングを来年2月までに延長したのは回復が減速しているため」
「第3四半期GDPは少なくとも2%縮小する可能性があり、さらなる縮小のリスクはある」
「第4四半期に経済は再び回復し、2022年まで続く予想」
「2022年、2023年の利上げ織り込みを理解することは難しい」
「豪ドルの予測はしないことを学習している。通貨に対して回復促進を期待しない」
「来年のどこかで債券買い入れを停止する可能性」
「利上げの前に債券買い入れを終了する見込み」
「インフレが3%を一時的に超えることに問題はない」
「失業率は4%を下回り、賃金が上昇する必要がある」

14日 20:35 トラス英国国際貿易相
「米国が準備できているのならば通商交渉を始める用意がある」
「中国に戦略的に依存することは避けたい」

15日 04:34 シューマー米民主党・上院院内総務
「債務上限を引き上げなければならない」
「共和党が債務上限にこだわっているのは危険」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

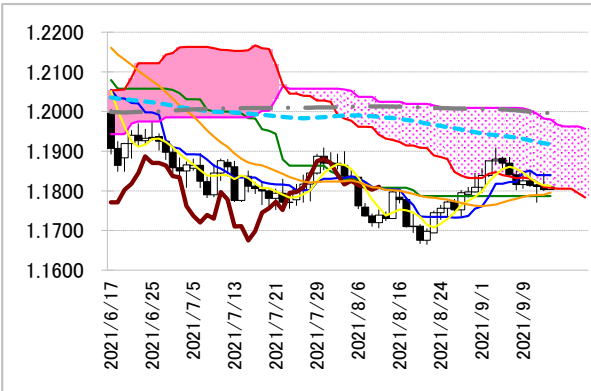


<ドル円=雲の上限を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回っているものの、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けており、売りシグナルが優勢な展開となっている。2手連続陽線で上昇後、抱き線で反落して転換線を下回って引けていることで、続落の可能性が示唆されている。

本日は、雲の上限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	110.45(9/8 高値)
レジスタンス 1	110.19(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	109.69
サポート 1	109.11(8/16 安値)
サポート 2	108.72(8/4 安値)

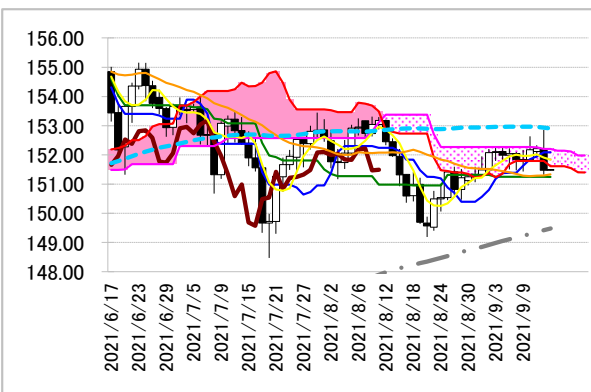


<ユーロドル=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の下で引けているものの、買いシグナルが優勢な展開となっている。しかし、3手連続陰線で下落して、転換線を下回って引けていることで続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1840(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1803
サポート 1	1.1787(日足一目均衡表・基準線)

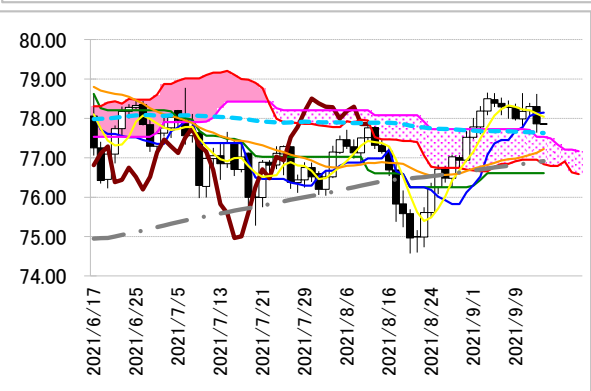


<ポンド円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回っているものの、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることから、売りシグナルが優勢な展開となっている。抱き線で反落して転換線を下回って引けていることで続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	152.09(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	151.47
サポート 1	150.45(8/25 安値)



<NZドル円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることから、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。しかし、抱き線で反落して転換線を下回って引けていることから続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	78.14(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	77.86
サポート 1	76.61(日足一目均衡表・基準線)

